

## 「第4次青森県循環型社会形成推進計画」(原案)に寄せられた意見の内容とそれに対する県の考え方

No.	提出された意見	県の考え方	
1	<p>「(1)プラスチック資源循環の推進(P.47)」では「海洋プラスチックごみ」について大きい問題としているにもかかわらず、県としての取組が「②海洋プラスチック対策の推進(P.50)」に掲げる「回収処理を行う市町村等への支援」と「県民や民間団体への啓発活動や支援」だけで、具体的施策が非常に薄い。</p>	実施段階検討	<p>プラスチック資源循環の推進に向けた県の施策としては、計画のp49～50に記載しているとおり、①県民行動の促進、②海洋プラスチック対策、③適正処理及び資源循環の取組支援、④自らの事業活動における取組促進の4つを掲げています。</p> <p>このうち、②海洋プラスチック対策については、市町村等の回収処理等の支援、ポイ捨て撲滅等に向けた普及啓発、民間団体等の活動に対する支援の3つの取組を示しており、これらの個別具体的な内容については、より効果的なものとなるよう、毎年度の県の関係事業の中で検討・実施して参ります。</p>
2	<p>「③プラスチックの適正処理及び資源循環の取組支援(P.50)」という記載はあるが、海岸に漂着したプラスチックは塩分を含むことから、リサイクルどころか焼却も拒否される状況にある。</p> <p>多くの県民がみんなで地域をきれいにしたいと思っているが、市町村も漁協も「ごみ処分」の方法や処分料に苦しんでいる。むつ湾・太平洋・日本海と三方を海に囲まれた青森県の特殊性もあるので、各市町村を繋ぎまとめる県の力が必要である。</p>	実施段階検討	<p>海洋プラスチックを含む海岸漂着物対策については、海岸漂着物処理推進法に基づき「青森県海岸漂着物対策推進地域計画」を策定し、毎年度、関係者による協議会を開催等して取組状況や今後の施策等について協議しており、御意見については、個別具体的な取組等を協議会等で検討する際の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>青森県は自然の観光資源が多く、またむつ湾のほたて産業も重要な観光資源であることから、「むつ湾の海洋プラスチック対策」は他県よりも重要度が高いと考えられる。</p> <p>特にマイクロプラスチックによる魚介類への影響は経済・観光のみならず、県民の健康にも直結する課題であることから、短命県返上を掲げている青森県として、計画に掲げられた海洋プラスチック対策に係る施策だけで良いのか疑問である。</p>	実施段階検討	同上
4	<p>毎年、海洋漂着ごみをどのくらい拾ったのかを数値化</p> <p>漂着ごみは測定が難しいが、どの程度拾ったかは測定できると思われるので、その数値により活動量を把握し、たとえば10年で活動量を5倍にする、漂着ごみをゼロにするにはこの程度の活動量が必要である、など明確な数値目標を持って施策を検討してほしい。</p>	実施段階検討	同上

## 「第4次青森県循環型社会形成推進計画」(原案)に寄せられた意見の内容とそれに対する県の考え方

No.	提出された意見	県の考え方
5	<p>海洋漂着ごみの処分に対するサポート</p> <p>漂着ごみは塩分を含むため、その処分が非常に大変であり、陸のごみと違い、拾っても安易に処分できないことがボトルネックになっていると思う。</p> <p>漂着ごみに対する市町村の対応もバラバラなのも課題である。各市町村のごみ処分場に持参すれば処理できる、または海岸ごとに漂着ごみ専用のごみ箱があるというような、誰がどの市町村でも気軽に漂着ごみを拾うことができる環境を整備してほしい。</p> <p>申請により処分費用を助成するなどの施策はこれまでも実施されているが、それでこれまでごみが減っていないので、より踏み込んだ対策が必要だと思う。</p> <p>漂着ごみに対する市民の意識は上がっており、気軽に拾える環境が整備できれば、民間のボランティアの力も使って、より回収量を増やすことが可能だと思う。</p>	<p>海洋プラスチックを含む海岸漂着物対策については、海岸漂着物処理推進法に基づき「青森県海岸漂着物対策推進地域計画」を策定し、毎年度、関係者による協議会を開催等して取組状況や今後の施策等について協議しており、御意見については、個別具体的な取組等を協議会等で検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、「青森県海岸漂着物対策推進地域計画」による取組内容については、次のとおり追記します。</p> <p>文章修正 P55 第4章第2節6(3)海岸漂着物等対策 「(略)具体的には、市町村等が行う海岸漂着物等の回収・処理事業への、国の地域環境保全対策費補助金を活用した補助や、回収した海岸漂着物の処理方法に関する情報提供等の支援を行うほか、民間団体等と連携したボランティアによる海岸漂着物等の回収の推進や、海岸漂着物等の問題に対する知識の普及等に取り組みます。」</p>
6	<p>民間団体とのネットワークの形成</p> <p>SDGsが広まったこともあり、漂着ごみに対する意識は確実に高まっている。漂着ごみを回収する団体・市民も多く、それらを点ではなく線で結び、より力強い活動をしていくことが必要だと思う。</p> <p>漂着ごみの回収量の把握についても、漁協や市町村のみならず、民間団体等の回収量も加味する必要があると思われ、そういった面からも民間団体とのネットワークが必要だと思う。</p> <p>また、そうしたネットワークから生まれる新しいアイデアや活動も期待でき、今まで以上の大きな動きができれば、より一層、漂着ごみに対する意識も高まっていくのではないかと思う。</p>	<p>文章修正 同上</p>